

第2回 JICA 海外協力隊員社会還元表彰式出展報告書

開催：2024年6月7日（金） 会場：JICA 麹町本部

JICA では、JICA 海外協力隊の事業目的の一つである「ボランティア経験の社会還元」事例を収集し好事例として紹介することで、協力隊 経験者の社会還元の機運を高めると共に、より良い社会の実現を目指しています。

6/7(金)には JICA 麹町にて、帰国後 10 年以内の JICA 海外協力隊経験者で、国内外・公私問わず社会課題の解決に取り組んでいる方を表彰する『帰国隊員社会還元表彰』の第2回式典を実施。49名の応募者から各賞に選出された6名 大賞を受賞した栗野氏と田中 JICA 理事長が活動内容をプレゼンし、選考委員による審査の結果、大賞は一般社団法人「チョイふる」代表理事として足立区で生活困窮家庭の支援活動に取り組まれている栗野泰成さんに授与されました。

詳細はこちらの pdf で

[2nd_syakaikangenhyoushoushikitenjissi_240628.pdf \(jica.go.jp\)](https://www.jica.go.jp/2nd_syakaikangenhyoushoushikitenjissi_240628.pdf)

アフリカ理解プロジェクトの出展

帰国後も社会にインパクトを。多分野で光る JICA 海外協力隊経験の社会還元

開発途上国でさまざまな課題解決にあたる JICA の海外協力隊。これまでの 58 年間に渡る活動で、5 万 5,379 人（2023 年 3 月時点）の協力隊員が世界 99 か国に派遣されてきました。そして、2 年間の任期後も、協力隊経験で培った課題解決能力、異文化コミュニケーション力といったスキルは、起業や地域社会活動などの分野で発揮されています。そうした協力隊員の「帰国後」に注目し、社会還元につながる活動事例を幅広く紹介・発信するため、JICA は「帰国隊員社会還元表彰」を昨年（2023 年）から始めました。

今回、アフリカで活動した協力隊 OV たちが中心となり社会還元活動を続けている（2024 年現在 21 年目）アフリカ理解プロジェクトに、「式典出席」および「式典後のネットワーキングイベント出展」の依頼がありました。

当日は式典の出席、および 2010 年から取り組むアフリカ生産者支援をまとめた、新刊『アフリカでアーティスト & アーティザンと私たちがモノづくりをした話 + アフリカ 8 つの楽しみ方』をはじめとする団体出版の書籍販売、本のなかに出てくる開発商品や作品の展示・販売を行いました。

式典では、帰国隊員たちの活動のプレゼンテーションを聞き、改めて協力隊員が任期中だけでなく、帰国後も国内外で貢献できること、このような活動をもっと多くの人に知ってもらいたい必要性を感じました。

式典/展示/販売の様子



JICA 麹町本部で式典。国内外から候補者のプレゼンテーションが行われました。



当日審査の結果、大賞が選ばれました。エチオピア OV です。詳細は上述の JICA 報告書 pdf を参照ください。



式典のあと、ネットワーキングイベントが行われました。各界から多様な方々が参加されており、ネットワークが広がるたいへん有益なイベントでした。



書籍ほか、新刊に掲載してるアーティスト&アーティザンの作品や商品、アフリカ黒檀の廃材を利用したマコンデ彫刻のアートなバターナイフ、森の幸せカメレオン、ティンガティンガアートといった協働で開発したモノづくりに関心が集まりました。



2 時間ほどのイベント時間でしたが、大勢のみなさんにお立ち寄りいただきました。商品・作品の魅力と共にアフリカに関心を持つ方たちが年々多くなっていると感じます。課題だけでなくアフリカの可能性についても発信し、より良いパートナーシップを築いていきたいと思っています。

<来訪者の声>

・新刊『アフリカでアーティストとアーティザンと私たちがモノづくりをした話』を購入して読ませてもらったが、アフリカでのモノづくりとストーリーが分かりやすくプレゼンテーションされており、感銘を受けた。多くの人に読んでもらいたい良書だ。

・日常の暮らしのなかで元気がでるようなカラフルでかわいい商品が多く、どれもみんなほしくなる。

・展示販売するすべての作品・商品に、アフリカと日本の人たちがいっしょにモノづくりしたというストーリーがあり、すばらしいと思う。

新刊の広報

今回、販売した新刊です！

第1章は、モノづくりの話です。



アフリカ各国は、いま観光産業に力を入れており、政府も伝統的な工芸品や土産物産業の育成に積極的です。人の手でつくる手工芸品は、設備投資に資金がかからないうえ、多くの雇用を生み出します。私たちは今から13年前、アフリカの小さな生産者グループとモノづくりをはじめました。そのなかで「モノづくりは人づくり」でもあることなど、多くの知見を得ました。新型コロナウイルス感染症パンデミックでは、観光客を失い収入が激減したアーティストやアーティストとオンラインを活用し、世界中どここの国や地域からでもできる生産者支援もはじめ

ました。第1章では、アフリカでの「モノづくり」や「ボーダレス時代の新たな支援の方法」の経験と学びを共有しています。

第2章は、アフリカの楽しみ方の話です。

日本で取り上げられるアフリカの情報は限定的で、アフリカの自然や、文化、食生活など、普通の人の暮らしを伝える情報はとても少ないのが現状です。多様なアフリカを知って欲しい、見つけて欲しい、そう願った話題を集めました。また、この章には私たちの講座で人気の高かった「体験」もたくさん掲載しています。いろいろな体験を通して、アフリカを身近に感じてもらえれば嬉しいです。



最後にこの本は、アーティストと構想を練り、アーティストが描き下ろした原画をふんだんに使った参加型の本です。そのため本の構想から、5年の時が過ぎました。



アフリカには“ゆっくりゆっくりバナナは熟れる”ということわざがあります。本書が おいしく熟したバナナとなり、これからアフリカに旅立つ人たちの糧となれば幸いです。